

「第3期深谷市子ども・子育て支援事業計画（こども計画）」策定のための

若者の意見交換会

報告書

令和6年8月

深 谷 市

I 実施概要

(1) 目的

「(仮称) 深谷市こども計画」を策定するにあたり、市内に在住・在学している若者世代の現状と課題を把握するとともに、その意見を聴取するため、意見交換会を開催しました。

(2) 実施方法

市内大学在住の学生による意見交換
(参加学生 6 名 男性 3 名、女性 3 名)

(3) 開催日時・場所

日時：令和 6 年 7 月 1 日 (月) 午後 5 時 00 分～午後 7 時 00 分
場所：埼玉工業大学 26 号館 4 階 中会議室

(4) テーマ

1 自身のこどもの頃の経験について

あなたは、どのようなこどもでしたか？

2 こども・若者の不安や悩み、価値観等

あなた（もしくはあなたの周りの人）は、どのような悩みを抱えていたり、不安を感じていますか。(いましたか。) また、どのような価値観を大切にしていますか。

3 結婚や出産、子育てへの意識・希望等

あなたは、結婚したり、こどもを産み育てたいと思いますか。そのことへの理解や実現を阻むことはありますか。

4 「こどもまんなか社会」の実現に向けて

「こどもまんなか社会」を実現させるためには、誰が、どのような取組を進めていく必要があると思いますか。

Ⅱ 意見の概要

テーマ1 自身のこどもの頃の経験について

(性格について)

- 幼稚園から小3くらいまでは親のことが大好きで外に出たくなかったが、ある日を境に学校が大好きになって、外にもよく出かけるようになった。友達ができたことがきっかけかも。
- 決して明るくはないが、家族のまんなかにいるようなこどもだった。
- 幼稚園ではまったくしゃべらなかったが、中心にいて目立ちたいこどもだった。小2からバスケットを始めからは元気なキャラになった。
- 保育園のころから下の学年のこどもたちを引き連れて遊んでいるようなこどもだった。
- 小3ごろから暗めな性格になり、いやがらせを受けた経験もあったが、小4頃に自分からやりたいと言った卓球を始めて性格が一変した。

(習いごとについて)

- 水泳、サッカー、体操、英会話など多くの習い事をしていて、自分から選んでやっていたが、決して裕福な家庭ではなかったのも、最後は1つに絞って続けた。
- 習い事をいろいろ経験したが、卓球ははじめて自分からやりたいと言って始めた習い事であり、卓球により性格が変わった。
- 小1から詩吟を習っている。そのほか、陸上、水泳、卓球、フェンシングを習っていた。
- 姉の影響でエレクトーンを長くやっていた。自分からやりたいということはなかった。

(地域の大人との関わりについて)

- 地域の人とは浅く広い付き合いという感じだった。周りは見守ってくれる人が多かった。
- 地域の育成会や体育祭に参加し、そこで地域の大人との関わりがあった。
- 地域とのかかわりはあまりなかった。イベント等はあったが、自分から行くタイプではなかった。
- 地域の卓球愛好会に入っており、そこで地域の大人との関わり方を覚えた。
- 祖母が顔が広く、いろいろな地域の行事に連れて行ってもらっていた。地元に戻ると「大きくなったね」と言われるが、自分はあまり覚えていない。

テーマ2 こども・若者の不安や悩み、価値観等

(人間関係の悩み)

- 苦手な人でも仲良く接するため、周りからどのように感じられているか考えてしまう。グループ間でもめているとき、悪口を言い合っているのはきつい。嫌いな人と距離を置いた時期もあったが、それはそれでつまらなくなってしまった。
- 上の立場に立つことが多く、その分悩みも増えるが、誰かに相談することが苦手。結局は自己解決を待つか、どうしようと悩んでしまう。頼り上手になればいいと思う。

○クラスぐるみでのいじめにあっていて時期があり、何度か死のうと思った。殴り返す、言い返すことにより、周りがそんなに強くないんだと自己完結した。学校に行きたくなかったが、親には直接いじめのことを話すことはできず、具合が悪いといていたが、学校に行くように言われていた。学校の先生には相談できない。

○小さい頃から家族の仲が悪く、家にいるのがつらかった。中学ぐらいで本当に嫌になり、心がしんどくなって心の病院に通うようになった。中3の担任の先生だけに話をしていた。唯一の心の支えだった。

(気持ち)

○無力感、何をしても無駄と感じてしまう。マイナス思考になってしまう。

○やりたいことやなりたいたいのがなく、それを聞かれると苦痛を感じる時期があった。就活も始まり、またどうしようと不安になっている。

(価値観)

○出会いを大切にしたい。出会った人それぞれの性格や価値観を尊重し、良い面を探せるようにしたい。

○人に興味を持てず、結局は赤の他人である、と思っている。やさしさは気まぐれであり、自分のための行動である。と思うと、最後は自分最優先である、という考えに至る。

○好きなこと、今できることは今のうちにやる。人生、どのようになるかわからない。

○今を楽しもうと思う。就職したら学生よりも時間が無くなる。

○中学の恩師の言葉「当たり前のことを当たり前のように」とアニメからの言葉「どう思われるかではなく、どう思うか」を大切にしたい。

○今世はもう諦めており、来世のために徳を積もうと思っている。

テーマ3 結婚や出産、子育てへの意識・希望等

(結婚したい理由)

○好きな人と一緒にいたいから。良い人がいればその人と一緒にいたい。

○老後の生活を一人で送りたいくない。

○結婚する前の付き合っている段階において、相手の人と向き合う時間が大切。

○結婚するまでの過程も含め、いろいろと挑戦していきたい。

○親戚の集まりなどで「まだか」とか「紹介しようか」などと言われたくない。

(結婚したいと思わない理由)

○そもそも人に興味がないため、結婚という選択肢はない。

○現状の幸せが維持できればよい。30歳が人生の幸福度の最大であると考えている。

○自分の人格はすでにできてしまっており、大きな変化を受け入れることができないのでは。

(結婚・子育てにあたっての障壁、不安)

- 相手の両親（姑）との関係がうまくいか不安。
- 出産から子育てまでにかかる金銭面を自分が支えられるかどうか不安。
- 自分は結婚・出産後も働きたいと思っても、相手はどう思うか。家族をおろそかにしてしまわないか不安。
- こどもを産む際に痛いのは嫌だが、無痛分娩は費用が高い。
- こどもを育てるというのは大変だと思う。自分たちの親はすごいと思うが、その苦勞を自分がしたいと思えない。

テーマ4 「こどもまんなか社会」の実現に向けて

（こどもまんなか社会とは）

- こどもの意見が通る社会。通らなかったときはその理由などをフィードバックすることが大切。
- こどもが発言でき、かつ否定されない社会。まずは受け入れ、一緒に考えていく社会。

（こどもが意見を表明するためには）

- 匿名で意見が言えること、紙で意見を表明できること。
- 意見や気持ちを言えない場合でも、少しの異変でも感じ取り、その原因を探ってくれることが大切。
- 上の世代は固定概念を持つ人が多い。それが大事な時もあるが柔軟で多様な考えをもってほしい。
- 世の中の人口バランスが悪いため、高齢者の意見が通りやすい。バランスを整えれば対等に意見表明できるのでは。
- 小中学校ではタブレットが配付されており、それを活用して意見が先生に伝わるような仕組みがあるといい。
- 市への意見表明について、市長や行政のことをよく知らない。まずは知っていく必要がある。

（相談できる相手、場所）

- 担任の先生だけでなく、知っている先生を増やし、相談できる選択肢を増やすことが大切。
- 学校の先生も大変であり、ケアも必要。カウンセリングできる仕組みがあるといい。

（その他）

- いじめは見えないところで行われる。先生もすべてを把握することは困難であり、監視カメラを設置することも必要。

参加者アンケートにおける意見・感想

意見交換会終了後に行った参加者アンケートの意見・感想は以下のとおり。

○たくさん考えることがあり、大変でも自分の考えを出すことができてとても良かったです。

今、就活の準備期間なので、将来についていい機会になりました。ありがとうございました。

○普段、こんな機会があまりないので、この会に参加できて、新たな考え方が生まれたのでよかった。大人数で話し合うことはあっても、少人数で話し合うことはないので、少し緊張した。

○貴重な経験をありがとうございました。

○子どもの意見が通る社会にしていけるのはとてもいい方向性だと思いました。大人の方の意見も今まで経験したことは子どもより多いと思うので、本当に正しい意見を吟味して取り入れてもらえればいいと思いました。

○今思えば、子どもの頃も真剣に考え、悩んでいたと思うと、大人になって何とかなると思わずに、真剣に聞いてあげることが必要だと思いました。